

平成30年

入学試験を施行

日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



大学のシンボルマーク



両学部部の合格者発表

東京短大、新潟短大の入学試験も

平成三十年度の日本歯科大学入学試験は、一月中旬のセンター試験と二月初旬の本学試験をもって東京で施行し、両学部の合格者を発表した。本年も同一試験日に、生命歯学部と新潟生命歯学部との受験と併願が可能な「全学部入試」を実施した。あわせて、東京短期大学と新潟短期大学の入学試験が行われた。

平成三十年度の入学試験は例年のように、大学入試センター利用入学試験と、本学で実施する一般選抜試験の二本立てで行われた。

本学では本年も、同一試験日に両学部部の受験と併願が可能な「全学部入試」を一般選抜とセンター利用入試で実施した。

一般選抜入学試験の前期試験は、生命歯学部(東京)において英語I・II一科目、国語・数学のうちから一科目、理科(物理・化学・生物のうちから選択)一科目、計三科目の学力試験、ならびに面接試験を二月一日に実施し、四日に合格

者を発表した。センター利用前期入学試験は、本学が指定した科目(二十七年次から外国語は英語が必須)の受験者に対して、二月五日に生命歯学部において面接試験を実施し、七日に合格者を発表した。

一般選抜、センター利用入学試験とも両学部部の合格者は、その受験番号を生命歯学部本館一階のメモリアルホールに掲示するとともに、本学ホームページにも掲載した。追って一般選抜後期入学試験(学力・面接)とセンター利用後期入学試験(面接)は、いずれも三月四日に生命歯学部(東京)において「全学

「試験開始」の合図で、試験問題に取り組み受験者たち

平成三十年度歯学会大会 6月2日に東京で開催

平成三十年度歯学会大会は六月二日、生命歯学部において開催される。大会長は、歯科理工学講座の宮坂平教授で、準備委員長を同講座の青木春美准教授が務める。

今回は「デジタル歯科の最前線」をメインテーマに掲げ、下表のように基調講演とシンポジウムが行われる。準備委員会では、その企画趣旨は次のように述べている。

平成二十四年(二〇二二)にCAD/CAMにより作製されたハイブリッドレジン冠が健康保険に導

NDU Open Campus 2018

受験者はもちろん、どなたでも参加できます

- ◇生命歯学部
7/1(日・校友会員対象)、7/22(日・通常)、7/25(水・多摩クリニック見学)、8/9(木・入試対策)、8/25(土・模擬授業)、9/23(日・附属病院見学)、10/27~28(土・日・通常・富士見祭)、11/25(日・校友会員対象)
- ◇新潟生命歯学部
6/9(土・浜浦祭)、6/30(土)、7/25(水)、8/7(火)、8/25(土)、9/29(土)
10:30受付、11:20開始、16:00終了
新潟生命歯学部で実施するAO入試の受験には、オープンキャンパスへの参加が必須です(前年度の参加も可)。
- ◇東京短期大学(会場は九段ホールと東京短大)
7/30(月)、7/31(火)、8/24(金) 各日とも午前と午後の部開催
10/27~28(土・日・富士見祭)、12/26(水) 13:00~16:00
- ◇新潟短期大学
5/20(日)、6/10(日・浜浦祭)、7/21(土)、8/2(木)、8/23(木)、10/13(土)
12:30受付、13:00開始、16:00終了

新潟・医科病院に禁煙外来おくる

新潟の医科病院では、昨年九月から禁煙外来を開設した。診療日は毎週月曜日の午後二時から三時までで完全予約制、医科病院の内科医師が交代で担当する。

本学での禁煙に対する取り組みは、二〇〇七年(平成十九)四月から新潟生命歯学部の敷地内全面禁煙を実施している。東京では飯田橋駅前の附

東京短期大学歯科理工学科と歯科衛生学科の一般入学試験は、一月二十一日に学力試験と面接試験を実施した。一般入学試験は三月三日に小論文と面接試験を、歯科理工学科の一般C入学試験は三月二十日に面接試験を実施する。

新潟短期大学歯科衛生学科では、大学入学試験センター利用入学試験を二月五日に、一般選抜前期入学試験を三月十七日に実施する。

辞令

鈴木 常夫
土持 眞

名譽教授の称号を授与する

平成三十年一月一日 本学

らかとなりつつある。現在の補綴物作製に用いられるCAD/CAMシステムは、石膏模型のデジタルスキャンから始まり、ハイブリッドレジンは、最終補綴物の切削加工が行われるが、この他に、セラミックスブロックやワックスの切削加工による製造用パターンの作製なども既に臨床応用されている。最新の話題としては、口腔内スキャナーや3Dプリンターによる積層造形法の現状を知ることにより、デジタル歯科の未来を予測することを目的として企画を立案した。

そこでの今回の歯学会大会では、各社の製品がほぼ出そろった感のある口腔内スキャナーについて、現状と問題点を明らかにし、さらに歯科応用の途上にある3Dプリンターによる積層造形法の現状を知ることにより、デジタル歯科の未来を予測することを目的として企画を立案した。

平成30年度歯学会大会のご案内

- 日時：平成30年6月2日(土) 11:00~16:30 (予定)
会場：日本歯科大学生命歯学部 富士見ホール・展示室
- メインテーマ『デジタル歯科の最前線』
 - 基調講演：
「歯科用CAD/CAMの現状と課題」(仮題)
高橋 英和 先生
(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯理工学専攻口腔材料開発工学教授)
 - シンポジウム
「口腔内スキャナーの現状と課題」(仮題)
堀田 康弘 先生 (昭和大学歯学部歯科理工学講座准教授)
「切削法によるCAD/CAMの現状と課題」(仮題)
白鳥 沙久良 先生 (生命歯学部歯科補綴学第2講座助教)
「3Dプリンターの歯科応用の現状と課題」(仮題)
石田 祥己 先生 (生命歯科学助教)
 - 学術研究奨励賞受賞講演
 - 研究・症例発表：ポスター展示
- 大会長：宮坂 平 (生命歯学部歯科理工学講座教授)
問合せ：準備委員長：青木 春美 (生命歯学部歯科理工学講座准教授)
TEL 03-3261-8697 haruaoki@tky.ndu.ac.jp

“住み慣れた街で生きる”を支援する

東京・多摩クリニック記念誌を刊行

本紙六四七号でも既報のように、東小金井の多摩クリニックは開設五周年を迎え、昨年十月に『日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック』の発行、関係者と関係機関などに配付した。同記念誌はB5判一〇二頁で、多摩クリニック開設五周年の受診状況やスタッフの業績、外来診療や地域基幹病院との連携、在宅訪問診療など、現在の取り組みを掲載している。

多摩クリニックの取り組みとして、「住み慣れた街で生きる」を支援するべく、地域包括ケアシステムの現場から」と題し、『デンタルダイヤモンド』誌の二〇一七年一月



日本歯科大学
口腔リハビリテーション多摩クリニック
開設5周年
附属病院 口腔リハビリテーション科発足5周年
大学院生命歯学研究科 臨床口腔機能学発足7周年



昨年10月刊行の多摩クリニック開設5周年記念誌



日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

開設5周年記念のハンドタオル
“食べる”の書は草間吉夫・元高萩市長

号く六月号に連載された記事を転載している。「食べる」を支える口腔リハビリテーション多摩クリニックの取り組みを、咀嚼障害や嚥下障害を抱えたまま暮らしている多くの子どもたちや高齢者がいる。住み慣れた家で『生きる』のために

最も重要なことは「食べる」ことである。食べることは生活の基本であり、食べ続けることを実践できることが、家で暮らすことのできる基本

条件である」と、口腔リハビリテーションに特化した多摩クリニックが実践する「地域で食べるを支える」取り組みを紹介した。



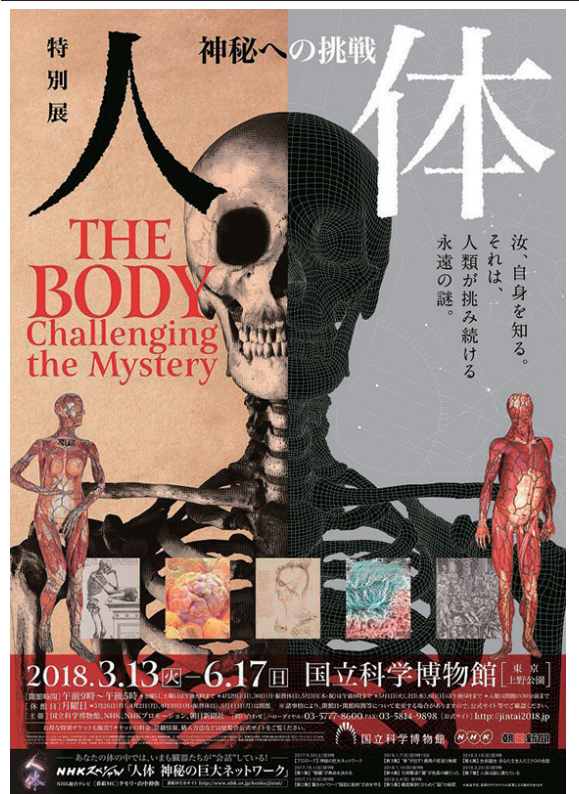
「住み慣れた街で生きる」ことを支援する口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動をまとめた記念誌

国立科学博物館から展覧 医の博物館から標本と古医書

三月十三日から六月十七日まで上野の国立科学博物館で開催される特別展「人体く神秘への挑戦」に、新潟生命歯学部解剖学第一講座から人体標本、医の博物館からはヨーロッパの古医書などを出展することになった。

同特別展は国立科学博物館とNHK、NHKプロモーション、朝日新聞社の主催によるもので、人体研究の歴史は、科学の縮図との見地から、人体理解の歴史、そして現在、将来の三章の展示ゾーンで構成されている。

医の博物館から展覧したのは、ハーヴェイの『血液循環論』より前に刊行され、上腕部の拍動で血液の流れを画したフアブリシウスの『解剖学と外科学』（一六二四年、アルビヌスの『人体筋骨格図譜』（一七四九年）など、アルビヌスの著書は、およそタテ75×ヨコ54×超大型本で、銅版画による最も美しい解剖図譜と



新潟で「健康麺」の試食会

新潟生命歯学部食育・健康科学講座の中野智子客員教授は、新潟県の食材を使った食品開発に取り組んでいるが、このたび新潟県産の玄米粉など

を使った「健康麺」を開発した。ホテル日航大阪やホテル日航新潟などの協力で製造した麺の試食会が、二月二十二日に八号館一階のGAKUSHI

「健康麺」県産・玄米粉ふんだんに 栄養満点 食べやすさ追求



日本歯科大が開発

日本歯科大学新潟生命歯学部食育・健康科学講座が、体に優しい麺を開発した。県産の玄米粉などを使った食品を開発しているが、このたび新潟県産の玄米粉などを使った「健康麺」を開発し、試食会を開き、試食会に約20人が参加。ホテル日航大阪の井口正彦総料理長がさまざまな太さの麺を使い、ラーメンやチャーシュー麺などを提供した。

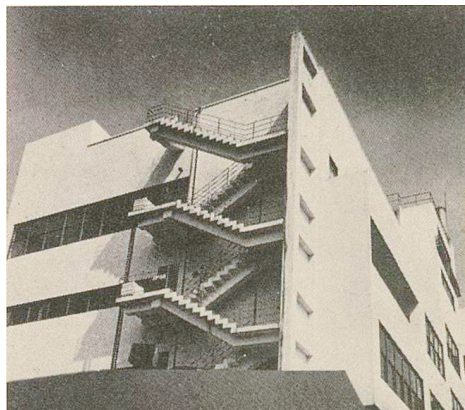
健康麺の試食会を報じる「新潟日報」2018年2月23日付朝刊32面(部分)新潟日报社提供



さまざまに調理した麺の食感を味わう学生たち

日本歯科大学新聞 第3号／第4号

日本歯科大学新聞第三号は昭和二十三年(一九四八)十二月一日に、同四号は二十四年二月十日に発行された次頁。



昭和11年(1936)に竣工した旧附属病院の西北側外観。山口文象設計による白い大理石貼りの病院は、昭和モダニズム建築といわれた

健康麺を使ったメニューは今後、新潟生命歯学部のGAKUSHI OKUやホテル日航新潟でも提供される。

試食会は、さまざまな太さの麺を使い、ラーメンやチャーシュー麺などを提供した。

第三号のトップ記事は、「第一回学術会議開催」の見出しで、山崎清教授が日本学術会議会員に立候補したことを報じている。また「全学連に加盟」や「歯科医師国試試験関連」の見出しで歯学会が発足したことなどの記事がある。

本校復興状況と、戦前東洋一の設備と、近代建築の先端を語る、スタイルの美しさを誇つて居た日歯病院も戦災により完全に焼けた。コンクリートの外かくのみを残してチューブは曲り、窓わくは落ち室内は

併し学校当局及校友の努力によつて、ガラス一枚残して居なかつた病院のガラス全部を入れ、外の化粧が終つたのは



昭和23年12月制定「歯大」の校章 昭和30年代まで使用

廿一年五月(当時東京で)のビルディング復興のナンパーワンであった)であった。その後、病院内の各設備及び、鉄骨のみならず、病院横の講堂の実験室への転換、復興、表事務所の新設と着々進み、以上の専門部関係以外、小金井の予科の新設と現在、完全に復興つて、全設備は、かへつて更新されたため戦前以上の機能を発揮その壮観は来院者の目をみはらしめている。(後略)

十六回空が、アメリカの歯科医学と歯科教育視察のため渡米したと報じた。そして「歯科学の新しき発展」と、電子顕微鏡が本学に設置されたこととなつたことなどの記事を掲載している。

第四号下段には、「昭和二十四年度財団法人日本歯科大学学生募集」の募集公告がある。理科を専修した旧制高等学校卒業生らは、この年、一九四九年に旧制の日本歯科大学歯学部へ入学し、四年後の一九五三年(昭和二十八)に大学第一期に緊迫致して参りました。申す迄もなく大学完成は吾等委員は勿論、五千の校友、母校の名誉にかけ実現すべきであります(後略)と本学校友に對し、なお一層の協力を呼びかけた。

クリスマス・ロビーコンサート 新潟と東京でひらく

新潟病院コンサート
新潟病院と医科病院では、第六回ロビーコンサートを昨年十二月七日に開催した。ヴァイオリニスト重奏は、新潟でAROSNOVAなどで活躍する庄司愛さんと佐々木友子さん。お二人とも桐朋学園大学音楽学部出身で、庄司さんは前年に続き二度目の出演となる。コンサートは大森みさき准教授(総合診療科)の司会で、クラシックから映画音楽の「ムーリバー」など、美しいヴァイオリンの調べがロビー



年末恒例となった病院ロビーコンサート
(右・新潟、下・東京)

に響きわたった。アンコール演奏のあと、寺田

員人教授(矯正歯科)から花束が手渡された。東京病院コンサート

十二月二十五日に恒例の

クリスマスロビーコンサートが開催された。演奏は生命歯学部アンサンブル部員と阿部恵一講師(同部顧問)・滑川

初枝講師(総合診療科)との構成で、クリスマス

も多く、数か月前から開催の日時に関する問い合わせが頻りに寄せられた。当日は二十五日のクリスマスということもあり、素敵な演奏にクリスマスムードを存分に味わった。

信濃毎日新聞に掲載 中原市五郎先生の業績

創立者の中原市五郎先生は、長野県駒ヶ根市の出身であることから、地元紙「信濃毎日新聞」の「東京の信州」と題し、その業績を特集した。記事は、昨年十二月十日の同紙朝刊三十六面に掲載。中原泉理事長・学長

は、記者の取材にこたえて、創立者が黎明期の日本の歯科界に果たした業績と、これからの歯科医学の教育と研究について語った。また新潟生命歯学部では、医の博物館の佐藤利英准教授が、一世紀以上に先が先生が開発した中原式咬合器の先見性について述べている。

東京 発生・再生医科学 幹細胞の培養、歯髄から血清なしで成功



RESEARCH Open Access
Establishment of xenogeneic serum-free culture methods for handling human dental pulp stem cells using clinically oriented in-vitro and in-vivo conditions
Mai Mochizuki and Taka Nakahara



本学は二〇一四年から『歯の細胞バンク』を開発し、将来の再生医療に利用するための患者の歯髄細胞を、体外で増やし

ていて。生命歯学部発生・再生医科学講座の望月真衣大学院生と中原貴教授らの研究グループは、これまで幹細胞の培養に必要な

だ。イギリスの専門誌「Stem Cell Research & Therapy」(2018年2月3日)に掲載された望月大学院生らの論文タイトル。本成果は、日本歯科新聞(2018年1月30日付)などでも紹介された。

細胞の能力や染色体安定性を損なうことなく歯髄細胞の大量生産に成功した。このたびの研究は、英国の幹細胞専門誌「Stem Cell Research & Therapy」(二〇一八年二月三日)に掲載された。

第三十六回日本ヒト細胞学会学術集会は、生命歯学部発生・再生医科学講座の中原貴教授を大会長に八月四・五日、本学生命歯学部富士見ホールで開催される。

◆平成30年度 ポストグラデュエート・コースのご案内◆

平成30年度ポストグラデュエート・コースは、以下のとおりです。臨床に即した興味深いテーマを企画いたしました。奮ってご参加ください。

コース	日程	テーマ	担当
A (生命歯学部) 1日コース	7月5日(木)	オーラルフレイルの概念と対応	口腔リハビリテーション多摩クリニック 附属病院 口腔リハビリテーション科
B (生命歯学部) 1日コース	7月21日(土)	GTR法・エムドゲイン®ゲル・リグロス®による歯周組織再生療法 ~理論と実践~	生命歯学部 歯周病学講座 附属病院 総合診療科
C (新潟生命歯学部) 1日コース	9月2日(日)	これから始めるマイクロスコープ診療 —マイクロエンド初級—	新潟生命歯学部 歯科保存学第1講座 生命歯学部 歯科保存学講座
D (生命歯学部) 2日コース	9月29日(土) 30日(日)	小児から大人まで歯科医院で取り組む 痛みと動きのコントロール —顎口腔顔面部に特化した筋膜組織の解剖実習付き2日間コース—	生命歯学部 解剖学第1講座 生命歯学部 小児歯科学講座 附属病院 顎関節症診療センター

※詳細は、5月発行の『校友会・歯学会会報』同封の冊子【平成30年度ポストグラデュエート・コースのお知らせ】に掲載
募集開始は各コースとも6月2日(土)、締切は、Aコース: 6月18日(月)、Bコース: 6月25日(月)、Cコース: 8月6日(月)、Dコース: 8月27日(月)
FAXまたはホームページにてお申し込みください。
※Cコースは平成28年度、29年度に開催されたコースと同様の内容です。
より多くの先生方が受講できるよう、初めての方のお申し込みを優先させていただきます。

学術研究を行っている研究者の団体で、今回が初めて「歯科」が主催する学術集会となる。メインテーマは「生命歯学部発生・再生医科学をにう医科と歯科の融合」で、一般演習や教育講演、特別講演、組織幹細胞、再生医療研究について、医学、歯学、薬学などの総合的な学術集会となる。また八月五日の午前中